

## 里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	計画策定と実行プロセス
手法名	森の健康診断
主体	矢作川水系森林ボランティア協議会
背景(地域の課題)	<p>近年の里地里山において、特に山村部では過疎化等に起因し、人の手が入らなくなったことによる人工林の放置と荒廃が問題になっている。</p> <p>こうした状況は土砂災害や洪水発生の原因となっており対策が求められる。しかし、森林の管理実態がきちんと記録されていない状況があり、具体的な対策を立てる際の障害となっている。そこでまず森林の現況を把握する手法や取り組みが求められていると言える。</p>
手法／方策の詳細	<p>「森の健康診断」は子ども達から専門家まで多くの人々が協働して森の現況を把握する手法。</p> <p>(1)多様な参加者を募り「森の健康診断」を 五感と科学で人工林の実態を知ることができるため、子どもから大人、一般から研究者まで幅広い層の参加が可能となり取り組んでいる。</p> <p>(2)調査の手順 次の手順で調査を進めることで、単なるデータ収集だけでなく参加者の意識とコミュニケーションを育むものとなっている。</p> <p>①森を2キロメッシュ区切り調査地を定める。 ②参加者は、班を編成し、準備体操をして調査地点へ向かう。 ③メッシュごとに各種の調査を参加者が協力・分担しながら実施する。 ④調査終了後にお昼を共にする等参加者や地域等の親睦を深める。</p> <p>(3)調査内容 調査の内容は主に植生調査と込み具合調査によって成り立っている。以下を行う。</p> <p>①立地測定(図2) ②植生調査(図3)※必ずしも同定までしなくてもよい。 ③込み具合調査(図4) ④樹高計による測定</p> <p>(4)必要な道具 記録用ボード、調査枠用紐など、ほとんど100円ショップで入手可能。</p> <p>(5)結果の分析と公開、活用 研究者グループと連携した分析、報告会の開催とホームページへの公開し、行政とも連携した対応策の検討に役立てられる。</p> <p>(6)取組の広域的展開 調査マニュアルを整備しポータルサイトを立ち上げる等、全国へ発信をされており、各地で出前授業も行い広めている。</p>
手法・技術的視点	<p>(1)多様な主体が参加可能な調査手法を提示 多様な主体の参加を促しながら、森の現状を知るための調査を行い、結果を視覚化し公開していくことで活動の透明性を確保している。調査段階から施策作りまで各段階ごとに様々な人々がかかわれる方法を提示している。</p> <p>(2)現状把握から対策の検討まで分かりやすいステップを明示 調査から具体的な対策の実施まで、全体を視野に入れた取り組み段階ごとの位置づけが明確であり、里地里山活動に取り組む計画作りのステップを効果的に誘導していると言える。</p>

